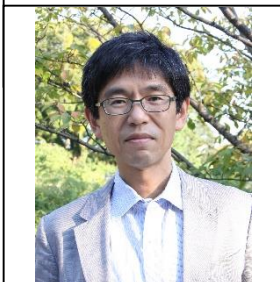


歴史・地理

keyword

- 観光地域史
- 日本近世宗教史
- 旅行文化
- 富士山と近江



青柳 周一
Syuich Aoyagi

経済学部
教授

【プロフィール】

- 略歴
- ・1970年 東京生まれ
- ・1993年 東北大学文学部 史学科 卒業 (国史専攻)
- ・1999年 東北大学大学院 文学研究科後期課程修了 (国史専攻)
- ・1999年 博士(文学)学位取得
- ・2001年 滋賀大学 経済学部 講師
- ・2002年 同 助教授
- ・2007年 同 准教授
- ・2011年 同 教授

【主な社会的活動】

- ・京都市民歴史部会 代表委員 (2014年5月～2015年4月)
- ・日本史研究会研究委員 (2004年11月～2006年11月)
- ・滋賀県公文書保存活用懇話会委員 (滋賀県庁、2006年4月～10月)
- ・滋賀県公文書管理に関する有識者懇話会委員、 (2015年8月～2016年5月)

【主な著書・論文】

- ・『富嶽旅百景—観光地域史の試み—』(角川書店、2002)
- ・高埜利彦・西田かほる・青柳周一『近世の宗教と社会 1 地域のひろがり』(吉川弘文館、2008、共編著)
- ・「近世における寺社の名所化と存立構造—地域の交流関係の展開と維持—」(『日本史研究』547、2008)
- ・「移動する商人—南東北地方における日野商人・中井源左衛門光熙の店廻りについて—」(『講座東北の歴史 1 争いと人の移動』清文堂、2012)

【代表的な研究テーマ】
□ 日本近世の観光地域史・旅行文化史

課題解決に役立つシーズの説明

【1】日本近世宗教史
近世における富士山信仰史と、富士山への登山をともなう参詣旅行史について研究している。富士山に対する信仰と参詣旅行は、近世後期の江戸を中心とする地域にあって大々的に流行し、近世民間宗教史の中でも特筆すべき社会現象となった。
さらに、その背景としては富士信仰を全国各地に広めた在地の宗教者集団(富士山御師)の活動が指摘できる。富士山信仰の歴史的特質について研究することは、近世における民衆の宗教的心性のあり様と、近世における宗教に関わる社会集団の実態とを解明する上で、大きな意義のあるものである。

【2】日本近世旅行史
研究【1】を敷衍させて、富士山に向かう参詣者たちの旅先での行動と、大勢の参詣者たちの来訪によって富士山麓地域にもたらされる経済的・社会的・文化的な諸影響について、総合的に研究した。
この研究は観光人類学、とくにマス・ツーリズム論との接点をきわめて多く有しており、マス・ツーリズム論を具体的なフィールド(富士山麓地域)での事例研究に基づきながら、歴史的観点から捉え直す試みにもなっている。【1】、【2】の研究を踏まえて、外部から旅行者をはじめとする人々の流入を積極的に受け入れることで再生産を継続するタイプの地域社会の歴史的研究＝「観光地域史」研究を提唱し、その成果は『富嶽旅百景—観光地域史の試み—』として上梓した。

【3】日本近世地域文化史
【1】、【2】の研究成果を受けつつ、富士山麓以外の他の地域についても、「観光地域史」的観点からの研究を開始している。
最近、近江国(滋賀県)における近江八景をはじめとする名所・旧跡の成り立ちに関心がある。近世の地域社会が、旅行者をはじめとする多くの人々の往来や、出版物を介した情報伝達などを通じた他地域との相互交流・相互影響関係の中で、いかに地域独自の文化を形成していったかを、滋賀県に残る豊富な史料に基づいて実証的に解明していきたい。
また、近江商人が本拠地(近江国)と遠隔地(関東・東北地方など)の間で展開した経営活動にともなう長距離移動と、進出先の住民と取り結んだ経済的・文化的・社会的関係の研究にも着手している。



近世末期の堅田満月寺(浮御堂)の宣伝用刷り物